

国際科学技術共同研究推進事業
地球規模課題対応国際科学技術協力プログラム (SATREPS)

研究領域「地球規模の環境課題の解決に資する研究」

研究課題名「エジプト西部砂漠のオアシス社会における住民の理解
と参画を軸とした水・土地資源の持続的利用モデルの構築」

採択年度：令和 5 年（2023 年）度/研究期間：5 年

相手国名：エジプト・アラブ共和国

令和 5（2023）年度実施報告書

国際共同研究期間^{*1}

Record of Discussion が未締結なため、未定義

JST 側研究期間^{*2}

2023 年 6 月 1 日から 2029 年 3 月 31 日まで

(正式契約移行日:Record of Discussion 及び Collaborative
Research Agreement が未締結なため、未移行)

*1 R/D に基づいた協力期間（JICA ナレッジサイト等参照）

*2 開始日=暫定契約開始日、終了日=JST との正式契約に定めた年度末

研究代表者：岩崎えり奈

上智大学外国語学部・教授

I. 国際共同研究の内容 (公開)

1. 当初の研究計画に対する進捗状況

(1) 研究の主なスケジュール

研究活動		2023年度 (10 ヶ月)	2024年度	2025年度	2026年度	2027年度	2028年度
研究題目 1「オアシス地域特有の水・塩動態の解明と塩類集積抑制のための水環境管理目標の提示」							
活動 1-1 地表水の動態および土地利用の現況を把握する。	マイルストーン		土壌・塩類化地マッピング		流域スケールでの表面水の水収支	や塩収支の解	↓
	当初計画						
	当年度計画	現状把握	塩類分布パターン測定			塩・水収支の分析	
	進捗状況	■					
活動 1-2 地下水の動態および水質を把握する。	マイルストーン		地盤・水量・水質調査			地下水資源とその持続可能性をマッピング	↓
	当初計画						
	当年度計画						
	進捗状況						
活動 1-3 塩類集積の拡大抑止ガイドラインを作成する。	マイルストーン					定量的なガイドライン作成	↓
	当初計画						
	当年度計画			地表-地下水循環プロセス解明		水管理目標検討	
	進捗状況						
研究題目 2「土壌・排水条件に適合する持続的オアシス型灌漑農業の提案」							
活動 2-1 オアシス灌漑農業の実態とその改良ポテンシャルを解明する。	マイルストーン		観測ステーションの設置		オアシス灌漑農業の実態とその改良ポテンシャル解明		↓
	当初計画			灌漑頻度・作付状況解		節水灌漑法導入検討	
	当年度計画					農家経営・市場調査	
	進捗状況	■	農家調査準備				
活動 2-2 耐塩性を高めた作物・品種の導入と土壌管理により、塩類化土壌を改良する。	マイルストーン					耐塩性作物の栽培法確立	↓
	当初計画						
	当年度計画			耐塩性の作物品種選抜		現地栽培試験	
	進捗状況	■	作物情報収集				
活動 2-3 オアシスにおける持続的営農技術指針を作成する。	マイルストーン					持続的営農技術指針作成	↓
	当初計画						
	当年度計画						
	進捗状況						
研究題目 3「住民による水・土壌環境モニタリングとその情報共有のためのデジタル・プラットフォームの構築」							
活動 3-1 情報通信事情を把握する。	マイルストーン			通信事情調査			
	当初計画						
	当年度計画						
	進捗状況	■	通信事情調査				

活動 3-2 データ収集・共有基盤を整備する。	マイルストーン						データ収集・共有基盤の整備
	当初計画						
	当年度計画			システム・アプリ開発		インターフェース構築	
	進捗状況						
活動 3-3 測定データの蓄積・統合・提供を促進する。	マイルストーン						測定データの蓄積・統合・提供
	当初計画						
	当年度計画			データ統合化		ポータル構築	
	進捗状況						
活動 3-4 デジタル・プラットフォームが持続的に運用されるためのデジタル・プラットフォーム構築マニュアルを作成する。	マイルストーン						デジタル・プラットフォーム構築マニュアル作成
	当初計画						
	当年度計画						
	進捗状況						
研究題目 4「水稀少資源に立脚したオアシス社会の多面的価値と社会管理の提示」							
活動 4-1 水・土地資源の利活用の実態を明らかにする。	マイルストーン						水・土地資源の利活用の実態解明
	当初計画						
	当年度計画	予備的聞き取り調査、データ収集		データ収集・調査開始			
	進捗状況						
活動 4-2 コミュニティ活動を組織化する。	マイルストーン						コミュニティ活動組織化 ガイドブックやパンフレット作成
	当初計画						
	当年度計画	地域協力体制の構築準備		活動開始			
	進捗状況						
活動 4-3 政策提言に係る活動を行う。	マイルストーン						政策提言
	当初計画						
	当年度計画						
	進捗状況						

(2) プロジェクト開始時の構想からの変更点(該当する場合)

勉強会と詳細計画策定調査での議論を踏まえて、社会実装をより確実なものとするため、社会実装のための項目を各研究題目に加えて研究を実施することとした。詳しくは、「II. (2) 成果達成の見通し」を参照されたい。

2. 計画の実施状況と目標の達成状況（公開）

(1) プロジェクト全体

・プロジェクト目標の達成状況とインパクト

2023年度の暫定期間においては、本研究の基本理念とアプローチに関する共通理解の醸成、ならびに日本側およびエジプト側研究者、対象地域であるニューバレー県のネットワーク構築と研究実施体制の整備が進展した。

(1-1) 本研究の基本理念の共有・現状把握

- 日本側研究メンバーと JICA および JST の関係者の参加を得て、キックオフミーティングを含む 3 回の詳細計画調査に向けての事前準備会合を開催し、本研究の基本理念と目標に関する共通理解を深めた。2023年6月1日のキックオフミーティングの後、6月26日の第1回事前準備会合では、プロジェクト正式化までの手続き、研究体制や研究活動の流れについて議論し、理解を深めた。また、PDM(Project Design Matrix)及びPO(Plan of Operation) についての共通認識を深めた。2023年8月28日に開催した第2回事前準備会合においては、本研究の全体計画と各研究グループの役割について、PDM 及び PO の枠組みに沿って具体的内容と進め方を議論した。
- エジプト側研究者とは、代表の岩崎がエジプト出張時に 2023年7月6日に National Authority for Remote Sensing and Space Sciences（以下、NARSS と称する。）においてハイブリッド顔合わせ会を NARSS 研究者と日本側研究者とで実施し、本研究の目標や基本理念について理解を深めた。岩崎、濱、斎藤がエジプト・西部砂漠オアシスを訪問時の8月10日に、ニューバレー大学においてハイブリッド顔合わせ会を行い、ニューバレー大学の研究参加者と日本側研究者との間で、基本理念とアプローチについて議論した。
- 2024年3月に上智大学アジア文化研究所がニューバレー大学の Tantawy 学長と研究チームリーダーの Abdelhafez 准教授を招聘し、研究ワークショップ Toward Understanding Water and Land Use in the Oasis of Western Desert, Egypt を 2024年3月11日に開催し、エジプト西部砂漠の水土地利用の現状理解を深めた。土壌を専門とする Abdelhafez 准教授は“Facing the Elements: Navigating Agricultural Challenges in the New Valley (Western Desert) Through Soil and Water Salinity Management”、水文学を専門とする Tantawy 学長は“Aquifer Systems and Groundwater Quality in the New Valley (Western Desert of Egypt)”と“Water Utilization in Balat Village (Dakhla Oasis): A Historical and Contemporary Overview”について報告した。

(1-2) 本研究の正式開始に向けた手続き

- 2023年9月中旬に、エジプトにおいて詳細計画策定調査を実施した。2023年9月10日から13日までの4日日間に渡り、ニューバレー県のプロジェクトサイト予定地を訪れ現地視察を行い、地域協力体制構築に向けて、ニューバレー県知事や、ニューバレー県灌漑局、ニューバレー県ダフラ郡庁、ラシユダ村役場等を訪問し、意見交換を行った。9月17日から22日までの5日間に渡り、JICA, JST 担当者、エジプト側カウンターパートの NARSS とニューバレー大学、オンライン参加の日本側研究メンバーで協議を行い、プロジェクト全体の実施体制や実施項目（PDM：Project Design Matrix）の内容を調整し、JICA と NARSS の間の R/D (Record of Discussion)

【令和5年／2023度実施報告書】【240531】

締結に向けた M/M (Minutes of Meeting) の内容の精査を行い、9 月 21 日に調印式を行った。R/D の署名は、2024 年 3 月の時点で、先方政府の承認待ちである。

- CRA (Collaborative Research Agreement) については、NARSS とニューバレー大学それぞれとメールで書面を複数回交換して、2023 年 12 月に CRA の内容を確定させた。ニューバレー大学とは、学長招聘期間中の 3 月 13 日に、上智大学で CRA 署名式を行った。NARSS との署名は、2024 年 3 月の時点で、先方政府の承認待ちである。



NARSS にて詳細策定計画調査 打合せ、M/M 調印式 (2023 年 9 月撮影)



ニューバレー大学と上智大学の CRA 調印式 (2024 年 3 月 13 日)

・地球規模課題解決に資する重要性、科学技術・学術上の独創性・新規性

- 本プロジェクトは、地域社会・環境条件を踏まえたオアシスでの持続的な水・土地の利用方法を考案することを目指している。持続的な水・土地の利用というテーマの重要性は当初から変わらないが、人口増加の一方でナイル川上流国によるダム開発により水不足が大きな懸念材料となっており、テーマの重要性はより一層高まっていると思われる。

・研究運営体制

- 本プロジェクトに参加する研究者は、日本側が 18 人、エジプト側が NARSS31 人、ニューバレー大学 20 名程度を予定している。
- 2023 年 9 月の M/M 調印時点での、プロジェクトの実施体制図と各研究グループのリーダーを図に示す。日本側は、岩崎と吉田がまとめ役となり、オアシス水文研究グループが吉田、オアシス農業研究グループが松岡、デジタル・プラットフォーム研究グループが溝口、オアシス社会研究グループが岩崎をチームリーダーとしている。

研究代表機関
上智大学／国立リモートセンシング空間科学研究所



Anis Chkurbene(チュニジア・ボルジセドリアテクノパーク・水資源技術センター助教)

(注) 図のメンバーや所属先は2023年9月時点のもの。

(2) 各研究題目

(2-1) 研究題目1：「オアシス地域特有の水・塩動態の解明と塩類集積抑制のための水環境管理目標の提示」

水文研究グループ（リーダー：吉田修一郎、Mohammed Bastawesy）

① 研究題目1の当初計画（全体計画）に対する実施状況（カウンターパートへの技術移転状況含む）

本研究グループではオアシス地域特有の水・塩動態を、地表水と土地利用、地下水の動態と水質の両面から解明することがプロジェクト前半の大きな課題であり、暫定期間(2023年度)には、その準備のための現地調査を、吉田・西田が中心になり実施した。

② 研究題目1の当該年度の目標の達成状況と成果

2023年12月には、吉田・西田がダフラ・オアシス地域の水環境に関わる既往の研究で報告されている灌漑水量や排水湖の貯水量に基づき、この地域の基本的な水収支構造の推定を行い、詳細調査の必要な項目や箇所を検討した。また、NARSSやニューバレー大学研究メンバーとともに、排水湖に関する統計資料の収集に努めたほか、斎藤が試験的に水質調査を2023年8月に実施し、その成果の一端を2023年12月24日のセミナー（下記V参照）にて発表した。

③ 研究題目1の当初計画では想定されていなかった新たな展開

現地調査と灌漑局における聞き取り調査から、想定よりも短期間で排水湖の貯水量が変化することが明らかになった。排水流域のマッピング、流域的な水・塩収支の実態を解明する重要性が改めて確認された。

④ 研究題目1の研究のねらい（参考）

塩類集積の拡大抑止ガイドラインを作成し、塩類集積抑制のための水環境管理目標を提示する。

【令和5年／2023年度実施報告書】【240531】

⑤研究題目 1 の研究実施方法（参考）

塩類集積の拡大抑止ガイドラインを作成し、塩類集積抑制のための水環境管理目標を提示するためには、地表水の動態および土地利用の現況、地下水の動態および水質に関する現状把握が不可欠である。そこで、地表水の動態に関しては、東京大学（吉田修一郎）と NARSS（Adel Shalaby）が中心になり、(1)リモートセンシングにより、滞水（waterlogging）や土壌の塩類化箇所を特定、計測機器を設置し、(2)農地スケール、流域スケールでの表面水の水収支や塩収支を明らかにする。



ダフラ・オアシス カラムーン排水湖にて塩濃度調査（2023年12月撮影）



ダフラ・オアシス ラシュダ村第三灌漑区域の井戸にて水質調査（2023年8月撮影）

(2-2) 研究題目 2：「土壌・排水条件に適合する持続的オアシス型灌漑農業の提案」

オアシス農業研究グループ（リーダー：松岡延浩、Ahmed Abdelhafez）

① 研究題目 2 の当初計画（全体計画）に対する実施状況（カウンターパートへの技術移転状況含む）

本研究グループでは、オアシス水文研究グループが解明するオアシス特有の水・塩動態に即した持続的営農技術と改良ポテンシャルを検討することを目的としており、暫定期間の 2023 年度には、許、西田、濱、丸山が本研究グループのカウンターパートであるニューバレー大学とともに現状把握を行った。

② 研究題目 2 の当該年度の目標の達成状況と成果

準備期間(2023年度)には、西部砂漠（ニューバレー県）における作付けや農業に関する基本的な統計を収集し、基本的なオアシス農業の状況把握と、灌漑に関する状況把握に努めた。具体的には、許が 2023 年 8 月にカイロにて作物に関する状況把握に努めたほか、吉田・西田が 2023 年 8 月と 12 月に、水文研究グループと共同計測予定の観測ステーションを試験的に圃場に設置し動作確認を行った。また、岩崎と丸山がニューバレー大学（Gamal Hassan）と農家調査について打合せを行い、濱がリモートセンシングによるオアシス農業の分析に着手した。さらに、西部砂漠（ニューバレー県）、とりわけダフラ・オアシスの栽培作物に関する基本情報を収集した。

③ 研究題目 2 の当初計画では想定されていなかった新たな展開

現在のところ特に該当無し。

④ 研究題目 2 の研究のねらい（参考）

本研究グループは、オアシス水文研究グループが提示予定の水環境管理目標にあわせて、土壌・排水条件に適合する持続的オアシス型灌漑農業を提示する事を狙いとしている。

【令和 5 年／2023 年度実施報告書】【240531】

⑤ 研究題目 2 の研究実施方法 (参考)

持続的オアシス型灌漑農業を提示するために、オアシス灌漑農業の実態とその改良ポテンシャルを解明し、そのうえで水収支や生産性への影響を考慮した品種の現地栽培試験を行い、オアシス地域に適した耐塩性作物の栽培法を確立する。

(2-3) 研究題目 3 : 「住民による水・土壌環境モニタリングとその情報共有のための デジタル・プラットフォームの構築」

デジタル・プラットフォーム研究グループ (リーダー: 溝口勝、Marwa Sayed)

① 研究題目 3 の当初計画 (全体計画) に対する実施状況 (カウンターパートへの技術移転状況含む)

農民・住民・研究者が長期的に利用可能な情報共有のためのデジタル・プラットフォーム構築を目的とするデジタル・プラットフォーム研究グループでは、暫定期間の 2023 年度においてインターネット通信状況を把握するため、2023 年 8 月に溝口が NARSS 研究者に農場での土壌センサー設置方法を教え、通信テストを行った。

② 研究題目 3 の当該年度の目標の達成状況と成果

通信機能を有するデータロガーやインターバルカメラを対象地で動かし、デジタル・プラットフォーム構築の前提である対象地域の通信状況について粗い評価を行った。

③ 研究題目 3 の当初計画では想定されていなかった新たな展開

現在のところ特に該当なし

④ 研究題目 3 の研究のねらい (参考)

デジタル・プラットフォームを構築し、住民や研究者で水・土壌環境モニタリングとその情報を共有できるようにする事を狙いとする。

⑤ 研究題目 3 の研究実施方法 (参考)

デジタル・プラットフォームを構築するために、データ収集・共有基盤を整備し、測定データの蓄積・統合・提供を促進する。また持続的運用のためのマニュアルを作成する。



農場にてセンサーの通信テスト(2023年12月撮影)



土壌センサーの設置方法の説明(2023年8月撮影)

(2-4) 研究題目 4 : 「水稀少資源に立脚したオアシス社会の多面的価値と社会管理の提示」

オアシス社会研究グループ（リーダー：岩崎えり奈、Ahmad Diab）

① 研究題目 4 の当初計画（全体計画）に対する実施状況（カウンターパートへの技術移転状況含む）

稀少な水資源の社会管理の提示をめざす本研究グループでは、暫定期間の 2023 年度では地域協力体制の構築に努めた。

② 研究題目 4 の当該年度の目標の達成状況と成果

暫定期間(2023 年度)においては、灌漑局や農業局における既存の統計データ情報を収集したほか、排水湖の管理や歴史について予備的な聞き取り調査を行った。また、2023 年 9 月の詳細計画策定調査時に、社会実装の実効性を高めるため、地方開発省が計画省とともに全国で実施している「ハヤ・カリーマ (Decent Life)」などの大規模な農村コミュニティ開発事業の一環として本提案プロジェクトを位置づけられないか、地方開発省や県知事・県庁に打診したほか、ダフラ郡の郡庁、ラシュダ村の村役場、ダフラ郡灌漑局等を訪れ、本プロジェクト実施にあたる協力体制について意見交換を行った。さらに、同じく詳細計画策定調査時にニューバレー県知事に面会し、社会実装のための協力を要請し、本プロジェクトが正式化した際には県庁に支援チームが立ち上げられる事となった。

③ 研究題目 4 の当初計画では想定されていなかった新たな展開

現在のところ特に該当無し。

④ 研究題目 4 の研究のねらい（参考）

持続的な水利用のための社会管理を提示し、住民参加型の水利用と政策提言を行う事を狙いとしている。

⑤ 研究題目 4 の研究実施方法（参考）

水・土地資源の利活用の実態を明らかにしたうえで、コミュニティ活動を組織化し、)政策提言に係る活動を行う。



ニューバレー県灌漑局にて聞き取り調査(2023 年 12 月撮影)



ダフラ郡灌漑局にて詳細計画策定調査時の聞き取り調査

II. 今後のプロジェクトの進め方、およびプロジェクト／上位目標達成の見通し（公開）

(1) 今後のプロジェクトの進め方および留意点

- 2023年9月に詳細計画策定調査をエジプトにおいて実施し、今後のプロジェクトの進め方について協議した。本プロジェクトにおける研究の実施については、NARSSが主たる実施機関である一方、現場でのコミュニティを巻き込んだ活動やその後の社会実装の観点では、現場であるニューバレー県にあるニューバレー大学が大きな役割を果たすと考え、両機関を実施機関とした。NARSSを代表研究機関としつつも、研究題目1「オアシス地域特有の水・塩動態の解明と塩類集積抑制のための水環境管理目標の提示」と研究題目3「住民による水・土壌環境モニタリングとその情報共有のためのデジタル・プラットフォームの構築」はNARSS、研究題目2「土壌・排水条件に適合する持続的オアシス型灌漑農業の提案」と研究題目4「水稀少資源に立脚したオアシス社会の多面的価値と社会管理の提示」はニューバレー大学が分担とし、役割分担を明確化した。
- プロジェクトでのパイロット・サイトの選定においては、これまでの研究実績のあるダフラ・オアシスのラシュダ（カラムーン）排水湖を候補地とするほか、ハルガ・オアシスおよび当初はファラフラ・オアシスを考えていたが、ファラフラ・オアシスは遠距離でリビア国境に近い候補から外し、ダフラ・オアシスを中心的なパイロット・サイトとし、ハルガ・オアシスについてはプロジェクト開始後に現地調査を実施してパイロット・サイトを選定する予定である。

(2) 成果達成の見通し

- 勉強会と詳細計画策定調査での議論を踏まえて、社会実装をより確実なものとするため、社会実装のための項目を各研究題目に加えて研究を実施することとした。その結果、研究題目1「オアシス地域特有の水・塩動態の解明と塩類集積抑制のための水環境管理目標の提示」には(1-3)塩類集積の拡大抑止ガイドラインの作成、研究題目2「土壌・排水条件に適合する持続的オアシス型灌漑農業の提案」には(2-3)オアシスにおける持続的営農技術指針の作成、研究題目3「住民による水・土壌環境モニタリングとその情報共有のためのデジタル・プラットフォームの構築」には(3-4)デジタル・プラットフォームが持続的に運用されるためのデジタル・プラットフォーム構築マニュアルの作成、研究題目4「水稀少資源に立脚したオアシス社会の多面的価値と社会管理の提示」には(4-3)政策提言に係る活動が加えられた。
- 上位目標は、「排水湖の拡大や土地の塩類化を食い止め、水と土地を持続的に利用可能にする住民参加型の総合的方法が西部砂漠のプロジェクトサイトにおいて根付く」事であり、この上位目標の達成には、対象となるニューバレー県と郡の地域行政の理解と協力が不可欠である。詳細計画策定調査時に、ニューバレー県庁、ダフラ郡庁、ニューバレー県灌漑局や農業局、ラシュダ村役場を訪れ、これから実施するプロジェクトへの理解が得られるようにプロジェクトの目標、実施内容について説明を行った。

III. 国際共同研究実施上の課題とそれを克服するための工夫、教訓など（公開）

プロジェクトが正式化した時には、相手国研究機関の研究者と密に連絡を取り合い、課題や問題点を常時共有していくことが大事である。

IV. 社会実装に向けた取り組み（研究成果の社会還元）（公開）

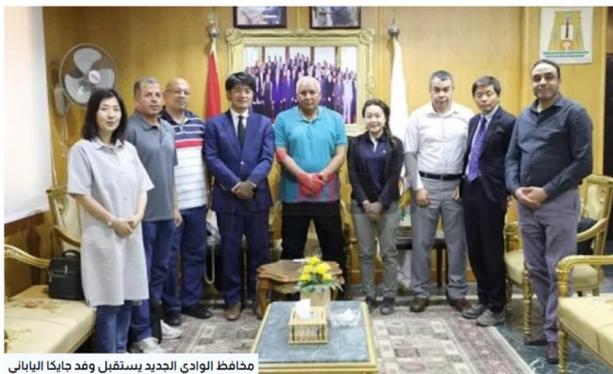
現在、詳細計画を策定した段階で、成果を得るに至っていない。

V. 日本のプレゼンスの向上（公開）

- 2023年8月の現地視察時と9月の詳細計画策定調査時に、現地での地域協力体制構築のため、ニューバレー県知事に面談したことは、エジプトの新聞・全国メディアで取り上げられた。
- 2023年11月26日に、日本大使がエジプト側代表研究機関のNARSS 所長に面談し、本 SATREPS に言及し日本とエジプトの協力関係について意見交換したことが、エジプトの全国紙で取り上げられた。
- 2023年12月27日には、7th Symposium for the Enhancement of Egypt-Japan Joint Research Projects In Egypt, Archaeology, Heritage Sciences, Land and Water Management “が日本学術振興会カイロ研究連絡センター主催でNARSS で開催され、そこで岩崎と Bastawesy が本プロジェクトに関するセッションを組んで発表した。

محافظة الوادي الجديد يلتقي وفد مكتب "جاكا" بمصر

الثلاثاء 12/سبتمبر/2023 - 04:52 م



محافظة الوادي الجديد يستقبل وفد جاكا الياباني

2023年9月12日付 ドゥストール紙「ニューバレー県知事、日本の JICA 代表団を迎える」



محافظ الوادي الجديد يلتقي وفد مكتب "جايكا" بمصر

الوادي الجديد - ماهر البهنساوي

اضف تعليقاً وقرأ تعليقات القراء



مشاركة

التقى اللواء دكتور محمد الزملوط محافظ الوادي الجديد، اليوم الثلاثاء، وفد هيئة التعاون الدولي اليابانية (جايكا) بمصر، والوفد المرافق من مسنولي الهيئة القومية للاستشعار عن بعد وعلوم الفضاء، وممثلة جامعة الوادي الجديد وجامعة صوفيا اليابانية؛ وذلك لوضع الإطار التنفيذي للمشروع المزمع تنفيذه بين المحافظة والهيئة، والاتفاق بشأن توقيع الاتفاقية خلال الفترة القادمة.

وأكد المحافظ على الرغبة في التوسع في مشروع إعادة إحياء صناعة الحرير بالتعاون مع الجانب الياباني من خلال نقل التكنولوجيا الحديثة؛ لتوطين الصناعة وتوفير فرص عمل للأسر البسيطة. لافتاً إلى زيارته الأخيرة إلى الصين ضمن فعاليات تأسيس "اتحاد طريق الحرير للمدن السياحية" والتي شاركت فيها دولة اليابان، آملاً أن تتحول نتائجها إلى تعاون ملموس على أرض الواقع.

|| あ ||

كما أوضح أن هذه الزيارة تأتي استكمالاً للزيارات السابقة، وتستهدف اختيار أنسب المواقع لتنفيذ المشروعات المتعلقة بمجالات الزراعة والري، مؤكداً على تقديم كافة التيسيرات لبدء التنفيذ الفعلي.

2023年9月12日付 al-Youm al-Saba' 紙「ニューバレー県知事、エジプトの JICA オフィスの代表団と会談、合同調査研究を協議」

<https://www.youm7.com/story/2023/9/12/%D9%85%D8%AD%D8%A7%D9%81%D8%B8-%D8%A7%D9%84%D9%88%D8%A7%D8%AF%D9%8A-%D8%A7%D9%84%D8%AC%D8%AF%D9%8A%D8%AF-%D9%8A%D9%84%D8%AA%D9%82%D9%8A-%D9%88%D9%81%D8%AF-%D9%85%D9%83%D8%AA%D8%A8-%D8%AC%D8%A7%D9%8A%D9%83%D8%A7-%D8%A8%D9%85%D8%B5%D8%B1-%D9%84%D8%A8%D8%AD%D8%AB-%D8%A7%D9%84%D8%AA%D8%B9%D8%A7%D9%88%D9%86/6302195>

محافظ الوادي الجديد يلتقي رئيس مكتب جايكا بمصر



2023年8月7日付 al-Wafd 紙「ニューバレー県知事、日本の JICA 事務所長と会談」

<https://www.alwafd.news/5137413>

هيئة الاستشعار وعلوم الفضاء تبحث سبل دعم التعاون المُشترك مع سفير اليابان بالقاهرة

طباعة Facebook Twitter



2023 年 11 月 16 日付 al-Shruq 紙 「NARSS、カイロの日本大使を協力関係について協議」
<https://www.shorouknews.com/news/view.aspx?cdate=16112023&id=3e5aee95-8d70-4daf-b305-36aede729aa2>

هيئة الاستشعار من البعد تنظم ندوة لتعزيز التعاون المصري الياباني

دهند بدارى، الخميس، 28 ديسمبر 2023 02:20 م



2023 年 12 月 23 日付 Maspero. eg 「NARSS が日本との協力を強化するためのシンポジウムを開催」

<https://www.maspero.eg/science-and-technology/2023/12/28/745848/%D9%87%D9%8A%D8%A6%D8%A9-%D8%A7%D9%84%D8%A7%D8%B3%D8%AA%D8%B4%D8%B9%D8%A7%D8%B1-%D9%85%D9%86-%D8%A7%D9%84%D8%A8%D8%B9%D8%AF-%D8%AA%D9%86%D8%B8%D9%85-%D9%86%D8%AF%D9%88%D8%A9-%D9%84%D8%AA%D8%B9%D8%B2%D9%8A%D8%B2-%D8%A7%D9%84%D8%AA%D8%B9%D8%A7%D9%88%D9%86-%D8%A7%D9%84%D9%85%D8%B5%D8%B1%D9%8A-%D8%A7%D9%84%D9%8A%D8%A7%D8%A8%D8%A7%D9%86%D9%8A>

以上

なお、Record of Discussion (R/D) が未締結であるところ、「成果目標シート」の提示は無し。

VI. 成果発表等

(1) 論文発表等【研究開始～現在の全期間】(公開)

① 原著論文(相手国側研究チームとの共著)

年度	著者名, 論文名, 掲載誌名, 出版年, 巻数, 号数, はじめ～おわりのページ	DOIコード	国内誌/ 国際誌の別	発表済 /in press /acceptedの別	特記事項(分野トップレベル雑誌への掲載など、 特筆すべき論文の場合、ここに明記ください。)

論文数 0 件
 うち国内誌 0 件
 うち国際誌 0 件
 公開すべきでない論文 0 件

② 原著論文(上記①以外)

年度	著者名, 論文名, 掲載誌名, 出版年, 巻数, 号数, はじめ～おわりのページ	DOIコード	国内誌/ 国際誌の別	発表済 /in press /acceptedの別	特記事項(分野トップレベル雑誌への掲載など、 特筆すべき論文の場合、ここに明記ください。)

論文数 0 件
 うち国内誌 0 件
 うち国際誌 0 件
 公開すべきでない論文 0 件

③その他の著作物(相手国側研究チームとの共著)(総説、書籍など)

年度	著者名,タイトル,掲載誌名,巻数,号数,頁,年	出版物の種類	発表済 /in press /acceptedの別	特記事項

著作物数 0 件
公開すべきでない著作物 0 件

④その他の著作物(上記③以外)(総説、書籍など)

年度	著者名,論文名,掲載誌名,出版年,巻数,号数,はじめ-おわりのページ	出版物の種類	発表済 /in press /acceptedの別	特記事項

著作物数 0 件
公開すべきでない著作物 0 件

⑤研修コースや開発されたマニュアル等

年度	研修コース概要(コース目的、対象、参加資格等)、研修実施数と修了者数	開発したテキスト・マニュアル類	特記事項

VI. 成果発表等

(2) 学会発表【研究開始～現在の全期間】(公開)

①学会発表(相手国側研究チームと連名)(国際会議発表及び主要な国内学会発表)

年度	国内/ 国際の別	発表者(所属)、タイトル、学会名、場所、月日等	招待講演 /口頭発表 /ポスター発表の別
2023	国際学会	Erina Iwasaki, Mohammed Hagage, Salwa Elbeih, The Relationship between Water Resources, Land Use, and Socioeconomic Changes in Kharga Oasis, Western Desert (Egypt): An Approach Using Remote Sensing and Geospatial Analysis, WARMS-2024: Water Resources Management and Sustainability: Solutions for Arid Regions, Dubai, 2024/02	口頭発表
2023	国内学会	黒上京太郎, 濱侃, 松岡延浩, 岩崎えり奈「干渉SARを用いたエジプトハルガ・オアシスとダハラ・オアシスにおける地表面変動観測」日本農業気象学会、2023年3月15日	口頭発表

招待講演 0 件
口頭発表 2 件
ポスター発表 0 件

②学会発表(上記①以外)(国際会議発表及び主要な国内学会発表)

年度	国内/ 国際の別	発表者(所属)、タイトル、学会名、場所、月日等	招待講演 /口頭発表 /ポスター発表の別
2023	国際学会	Erina Iwasaki, "Groundwater Development in Kharga Oasis, Western Desert (Egypt) in the Era of Neoliberalism" 7th Symposium for the Enhancement of Egypt-Japan Joint Research Projects In Egypt, Archaeology, Heritage Sciences, Land and Water Management, NARSS (Cairo), Dec. 23, 2023	口頭発表
2023	国際学会	Erina Iwasaki, "Challenges of water sustainability in New Valley, Egypt", Challenges and Solutions for Global Water Scarcity: 1st Workshop (Egypt), New Valley University (Egypt), Aug 22 2023	口頭発表

招待講演 0 件
口頭発表 2 件
ポスター発表 0 件

VI. 成果発表等

(3) 特許出願【研究開始～現在の全期間】(公開)

①国内出願

	出願番号	出願日	発明の名称	出願人	知的財産権の種類、出願国等	相手国側研究メンバーの共同発明者への参加の有無	登録番号 (未登録は空欄)	登録日 (未登録は空欄)	出願特許の状況	関連する論文のDOI	発明者	発明者所属機関	関連する外国出願※
No.1													
No.2													

国内特許出願数 0 件
 公開すべきでない特許出願数 0 件

②外国出願

	出願番号	出願日	発明の名称	出願人	知的財産権の種類、出願国等	相手国側研究メンバーの共同発明者への参加の有無	登録番号 (未登録は空欄)	登録日 (未登録は空欄)	出願特許の状況	関連する論文のDOI	発明者	発明者所属機関	関連する国内出願※
No.1													
No.2													

外国特許出願数 0 件
 公開すべきでない特許出願数 0 件

VI. 成果発表等

(4) 受賞等【研究開始～現在の全期間】(公開)

①受賞

年度	受賞日	賞の名称	業績名等 (「〇〇の開発」など)	受賞者	主催団体	プロジェクトとの関係 (選択)	特記事項

0 件

②マスコミ(新聞・TV等)報道

年度	掲載日	掲載媒体名	タイトル/見出し等	掲載面	プロジェクトとの関係 (選択)	特記事項

0 件

VI. 成果発表等

(5) ワークショップ・セミナー・シンポジウム・アウトリーチ等の活動【研究開始～現在の全期間】(公開)

① ワークショップ・セミナー・シンポジウム・アウトリーチ等

年度	開催日	名称	場所 (開催国)	参加人数 (相手国からの招聘者数)	公開/ 非公開の別	概要
2023	2024年3月11日	Toward Understanding Water and Land Use in the Oasis of Western Desert, Egypt	日本	15人(2人)	公開	エジプト西部砂漠における水資源をめぐる問題について、招聘したニューバレー大学研究者2名に報告してもらい、意見交換した

1 件

② 合同調整委員会(JCC)開催記録(開催日、議題、出席人数、協議概要等)

年度	開催日	議題	出席人数	概要

0 件

成果目標シート

研究課題名	エジプト西部砂漠のオアシス社会における住民の理解と参画を軸とした水・土地資源の持続的利用モデルの構築
研究代表者名 (所属機関)	岩崎えり奈(上智大学外国語学部・教授)
研究期間	R5採択(令和5年6月1日～令和11年3月31日)
相手国名／主要相手国研究機関	エジプト・アラブ共和国/国立リモートセンシング宇宙科学機関、ニューバレー大学
関連するSDGs	目標 6. すべての人々の水と衛生の利用可能性と持続可能な管理を確保する 目標 15. 陸域生態系の保護、回復、持続可能な利用の推進、持続可能な森林の経営、砂漠化への対処、ならびに土地の劣化の阻止・回復及び生物多様性の損失を阻止する

上位目標

オアシスでの排水湖の拡大や土地の塩類化を食い止め、水と土地を持続的に利用可能にする住民参加型の総合的方法が西部砂漠オアシスのプロジェクトサイトにおいて根付く。

ニューバレー県庁主導で、持続的な水と土地の流域的な管理システムがプロジェクトサイトのオアシス村において実施される。

プロジェクト目標

エジプト西部砂漠オアシスのプロジェクトサイトにおいて研究者、農民と行政の協同により、塩類集積域の拡大を阻止する総合的な社会的・技術的枠組みを確立

100%

成果の波及効果

日本政府、社会、産業への貢献	・地球規模の水・土地資源の持続的利用への活用
科学技術の発展	・砂漠地における塩類集積域の拡大を阻止する技術フレームの構築 ・乾燥地に適した耐塩性の作物栽培手法の開発 ・人文社会科学と自然科学の知をとりこんだ水資源の持続的利用の総合システム開発
知財の獲得、国際標準化の推進、遺伝資源へのアクセス等	・土壌の塩類化を回避する広域での地下水灌漑 ・簡易な土壌データ収集共有システム
世界で活躍できる日本人人材の育成	・持続的水・土地利用に貢献し、国際的に活躍可能な日本側の若手研究者の育成
技術及び人的ネットワークの構築	乾燥地の水・土地管理をめぐる学際的、横断的な研究ネットワークの構築
成果物(提言書、論文、プログラム、マニュアル、データなど)	・【マニュアル】持続的水・土地利用のためのデジタル・プラットフォームづくり、【提言書】塩類集積域拡大抑制の量的ガイドライン、持続的オアシス営農技術のガイドライン、コミュニティ活動の組織化や実践のガイドブックやパンフレット ・【論文】西部砂漠における自由地下水と被圧地下水・地表3者間の水・塩移動、オアシス閉鎖系の水平的な水・塩動態、オアシス社会組織化メカニズム

